

信綱のふるさとを思う気持ちか
精一杯こめられた一首である。
明治五年、鈴鹿市石薬師町で生
まれた信綱は、のどかなふるさと
の山や川、田畠の自然に囲まれて
その豊かな心情と才能を育んだの
であろう。信綱にとつて短い間の
ふるさとであつたけれども、後々
までこよなくふるさとを愛したの
である。里人のために石薬師文庫
を寄贈し、子どもたちの学励のた
めに賞を与えて寄与したもの聞い
ている。

郷土の生んだ偉人信綱は、歌人
であり、国文学者であり、名譽あ
る第一回文化勲章の受章者であつて
彼の業績を顕彰する記念館が生地
石薬師に開館したのは、昭和四十
五年十二月のことである。今、三
十四年を経過した。その間、歌人
であつたり、研究者であつたり、
さらに門人、親族の方々等、幅広

短歌入門となるような有意義な活動を広げていきたいと考えている。障子からのぞいて見ればちらちらと雪のふる日に鶯がなく

記念館は今、
そしてこれから…

日本語いく千万の中にして
なつかしきかも「ふるさと」といふは
信綱のふるさとを思う気持ちが
精一杯こめられた一首である。

明治五年、鈴鹿市石薬師町で生
まれた信綱は、のどかなふるさと
の山や川、田畑の自然に囲まれて
その豊かな心情と才能を育んだの
であろう。信綱にとつて短い間の
ふるさとであつたけれども、後々
までこよなくふるさとを愛したの
である。里人のために石薬師文庫
を寄贈し、子どもたちの学励のた

信綱は四歳より父から歌の教育を受けており、これは六歳の時の歌で、父に認められた最初の歌だとされている。歌の教育を幼少よ

い関係者の来訪を受け入れてきた
彼の生家や遺品に興味深く見入つ
てゐる光景は、私たちにとつて心
あたたまるものがあり、明日への
励みになつてゐる。

しかし、「夏は来ぬ」（文部省
唱歌）は知つていても、その作詞
者が信綱であることを知つてゐる
人は予想外に少ない。ここに石薬
師町、鈴鹿市をはじめ、信綱がま
だまだ人々の知るところとなつて
いないのが課題である。

現在、記念館のために、地域の
多くの方々のボランティア活動を
頂いているところでもあるが、身
近な地域の人々に対する理解への
働きかけをしていきたい。例えば
移動学習—各地の歌碑を訪ねる—
なども採り入れ、信綱への理解、

り受け、その才能を育んだ信綱を思えば、子どもたちに対する真面目な対峙は大切な課題であり、郷土鈴鹿市の小中学生が訪れ、記念館を通して歌心にふれ、文学への夢をくらませるとしたら何とすればいいことか。遊びの場として大切にしたい。

今後は、遊び心を生かしたワーカシート学習や百人一首大会を催すのもよい方法であろう。生家や石薬師文庫を子どもたちの身近な生活学習の場として工夫をこらすのも、学芸員をはじめ私たち職員の課題である。

二八

熊澤家から、
関係資料
41点寄贈される

A photograph showing three men in traditional Japanese attire (one in a dark suit, one in a dark vest over a white shirt, and one in a dark vest over a light shirt) seated around a long wooden table covered with numerous documents and papers. They appear to be engaged in a formal meeting or review process.

にあたり 誠一郎氏 は、「家 で退藏し てしまふ よりは、 信綱研究 の一助と なればう れしい」 との思い を語られ ご寄贈

この手紙は、照子さんが結婚された際に、雪子夫人が主婦としての心構えを書いて贈つたものです。

雪子夫人は「あなたがしつかりなさって夫君をお助けし、夫君の気持ちを理解し、十分主婦として力を尽くされることをお祈りします。女は同情と義務との念がことに大切です」と、自分の娘に言うように愛情をこめ、照子に諭しています。

同時に、雪子夫人の良妻ぶりもうかがうことができ、ほほえましくもあり、大変興味深い資料です。

今後隨時、常設展示ならびに秋の平成十六年度特別展で公開する予定です。また、引き続き平成十七年度においても常設展示・特別展で公開し、できる限り資料の紹介に努めていきたいと考えています。

（京図）で過ごした時代を自由にしました。またその当時、信綱宅で仕事をのお手伝いをされた、渡辺ヨシさんからお聞きした思い出や遺品類を交えての企画でした。

意で展示することができました。
IV 信綱邸宅を訪れた人々・・・
林大先生をはじめ、坂田富美、篆
曲家の宮城道雄、信綱の親友であ
った新村出といった方々が訪れて
いました。「新村先生に頭を突付
かれた」というようなヨシさんと
のエピソードとともに、短冊、写真
原稿などを展示し、その交流を紹
介しました。

期間中の来館者は五百二十五人
にのぼりました。来館者より、「信
綱先生がぐつと人間味を持ち、身
近に感じられた」との声が多く寄
せられました。

また、佐佐木幸綱先生からも「心
の花」誌面で、「：少年時代の記
憶の野原で遊ぶことができた。：」
今回の展示は、その家およびその
家に住んだ時代を軸にした信綱像で
信綱の壮年期を知ることができます。
なかなか工夫された展示だった一

昭和四十九年に宮本画伯が亡くなられ、現在にまで至ったわけですが、凌寒荘の保存を願う声があり、だんだんと盛り上がり上がっていきました。署名活動や『心の花』誌面における「凌寒荘維持協力基金」の呼びかけ、「凌寒荘保存事業協力会」の募金活動の高まりを受けて熱海市の凌寒荘購入が実現しました。

◇◇熱海市からのお知らせ◇◇

平成十六年三月二十八日（日）

より、毎週土・日曜日の午前十時～午後四時まで、凌寒荘庭園開放開始。

【交通アクセスマップ】

*バス：熱海駅より⑩番のりば笠良ガ台循環で、来宮神社前下車徒步五分

*徒步：JR伊東線来宮駅下車、徒步十分。

十五年度特別展 盛況のうちに終ア

記念館
二二一

十五年度特別展
盛況のうちに終了

つたという結婚の祝いの色紙などをあわせて紹介しました。

と紹介いたたき、大変高評を得た
特別展となりました。

信綱
閏連情報

凌寒荘が
熱海市の所有に

